

降誕節第7主日礼拝説教要旨(2月8日)

『神様はあなたを愛している』 佐藤 彰牧師

ヨハネによる福音書3章16節

この箇所は有名です。イエスの12弟子で最も若かった使徒ヨハネは、晩年にこの一節を記しました。神はそのひとり子を世に遣わしたほどに、この世を愛されたと。アガペーで知られる愛ということばは見返りを求めず、価値がないと思われる者をもあきらめずにとことん愛される無償の愛を意味します。

私たちの教会は福島第一原発から5キロの位置にありました。ですから2011年の東日本大震災時は一時閉鎖、その後教会員は全国に離散。思ってもいない逃避行が始まりました。しかしやがて教会員から届く報告は、イエスがいかにも各人とともにおられたことが伝わる内容でした。避難先で出会った人たちとの心温まる交流や、もうだめかと思われた場面で体験した奇跡とも思える出来事の数々。ヨハネもイエス様の十字架から復活までをしっかりと見届けて、この一節を記したのです。

私たちの教会は、震災後約60名で700キロにわたる流浪の旅をしました。途上私はふと思いました。果たして溺れている人が他の溺れている人を助けられるだろうか。人が人を救うことには自ずと限界があるのではないかと。そしてだから罪のない神のひとり子イエス様が、罪人を救うためこの世に来られたのかとも。

最後にヨハネは、それは永遠のいのちを与えるためだったのだと結びました。私たちも旅路の途中、9名が洗礼を受けました。大地が揺れ、職場や学校も消えたからです。それではこの先一体何を信じて生きるのかが問われたのです。見えるものではなく、見えないものを信じて歩みなさいと。明日が見えない暗中模索の旅路にも、主はともにおられました。そしてその先には、永遠のいのちまでも備えておられたのです。